

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番地10
TEL.(0258)32-2811

◆スタッフ◆
安藤一夫

小林国二 小林善秋 高橋潔
佐藤正樹 近藤マリ子 近藤善信



安善寺門柱前のお地藏様

路傍の仏 『地藏菩薩』

翠巖 龍弘

「村のはずれの お地藏
さんは いつもここにこ
見てござる 仲よしこよし
の じゃんけんぼん ほしい
石けりなわとび かくれん
ぼ 元気に遊べと 見てこ
ざる それ見てござる」
地藏菩薩を見て、その尊
命を知らない人はほとんど
おりません。野辺や村の辻
街道の道沿いに、愛くるし



安善寺門柱脇にあるお地藏様

い童顔で雨に打たれ風にあ
たってたたずまれる石仏
に、小さな子供たちまでが
「お地藏さん」と、親しみを
こめて呼んでおります。
昔話の中にも「笠地藏」な
ど多くのお地藏さまの話が
あり、誰もが幼少のころか
ら親しんできました。また、
お地藏さまは多くの歌にう
たわれており、それだけ庶
民に愛され、信仰されてき
た菩薩さまです。

お地藏さまは古代インド
語では「キシチ・ギアルバ」
といい、大地のごとくすべて
のものの母体であり、すべ
てのものを平等に育成し、
成就させる力の働きをもつ
ものという意味があり、あま
ねく人々を救う方でありま
す。また、お地藏さまはお釈
迦さまが亡くなつてから、
五十六億七千万年後に弥勒
菩薩が現れるまで、衆生救済
してくださる菩薩さまです。

「笠地藏」にてくる六地
蔵とは、六道能化の地藏尊で
あり、六道輪廻の六つの世
界(地獄界・餓鬼界・畜生界・
阿修羅界・人間界・天界)の
どの世界にも気軽に現れて、
救済してくださるわけです。

日本各地には色々の名の
お地藏さまがおられます。
子安地藏・子授け地藏・子育
地藏・とげぬき地藏・疣取り
地藏・延命地藏・味噌地藏・
肥掛地藏・雨上げ地藏・縛り
地藏・おしろい地藏・縁切り
地藏など、数多くのお地藏さ
まがおいでになります。が、
地藏尊の利益にあずかろう
とする庶民の願望のあらわ
れです。

六道能化の救済者である
お地藏さまは、哀愍と代受若
(人々の苦しみやかなしみを、
人になり代わって受けてく
ださる)という大慈悲を誓
願し、衆生の苦しみや悩みを
一緒になつて受けてくださ
るため、修行が完成しなが
ら、如来にならず、自身の意
志で菩薩のまま、「いつもに
ここにいてござる」のです。

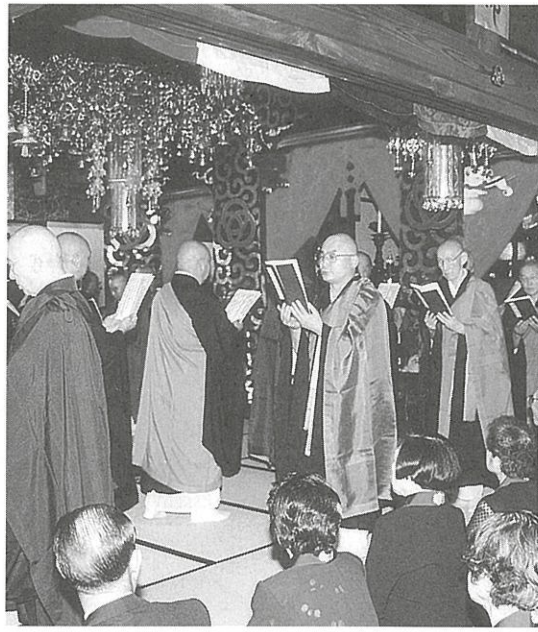
地藏真言

オンカカカヒサンマエイソワカ
「俺訶訶尾娑摩曳娑娑訶」

働き和尚の法要に想う

二十六世見龍大和尚十三回忌法要

小林政雄



「去る人、日々に疎し」といいますが、二十六世見龍大和尚様は檀家の皆様と同様に、折にふれ自宅の仏壇の前で先祖を思うとき、安善寺やお墓を見て思うときに必ず浮かんでくるのが、お元氣な時のあのタバコをくわえての、忙しそうな仕事、話し方と眼鏡の奥の眼差しです。そして坐禅会や法事のときのお説教の姿勢の良さ、凛とした透る声。お経が

ありがたく聞こえる独特の節回し…。梅雨の中の晴れわたった安善寺の本堂。夏を告げる紫陽花のふくらみに大和尚が重なるて見えた。何故だろうと軽い瞑想の中で考えた。なるほど「こよなく愛された奥様といつも一緒のかわいさと呼んでおられた声」と、お寺の隆盛に並々ならぬ感慨を感じられた「働き和尚様」の姿が頭に浮かんだ

のでした。

小生が安善寺様との因縁をいただいた始まりは、三十年前の、私たち夫婦の仏前結婚式からでした。当時の方丈様と父との話し合いで決まったようでした。爾來参禅会、父の代理としての世話人総代会の会合など、方丈様と酒を仲間いろいろな勉強をさせていただきました。数々の想い出の場面で現在の二十七世龍弘方丈様のご結婚 バスを運んでの乙川禅師様の鶴見総持寺



大般若法要と見龍大和尚法要

たくさん檀信徒の皆様においでいただきありがとうございました



梅雨晴れの六月十二日、午前十時より約三十名の僧侶により大般若法要（諸事祈願のために大般若六百巻を転読する法要）が始まりました。堂長（住職）導師のもと、般若心経の読経後、大般若六百巻が転読され「仏教の興隆、全世界の平和、国民の幸福、檀信徒、参拝者各家の家道興隆、心願成就、家内安全」などの祈願が行われた後、

の晋山式へのお祝い参拝、お孫さん（二十八世）の誕生、晩年の満足の人生としての「東堂」となられて、二十七世の龍弘方丈様へと、着実に宗門の繁栄と同時に安善寺、檀信徒への安寧を、そして隆盛に尽力されて来られました。それが、いつの間にか十三回忌となりました。導師をつとめられました普濟寺金子老師様のお話を聞きながら、傍らの龍弘方丈様の姿が安善寺本堂の中で太祖、高祖のお弟子さんと

しての地味な光を出されて、いるように感じられました。現方丈様のお力により大改修と新築なり遂げた位牌堂を配しての因縁深き御寺院方の読経と、心よき香りの中で法要に、この身を浸しての想いで回顧は安善寺の代々の大和尚様と、その時代々の私たち檀信徒の先祖様の悠久の因縁に感嘆し感謝の念で一杯であります。彼の岸よりの大和尚様に手を合わせつつお祈り申し上げる次第です。



五十嵐紀典老師（新津市・盛岩寺住職）の説教がありました。

午前十一時二十分より、金子弘久大導師（本寺・普濟寺住職）のもと、先住忌、安善寺二十六世重興雲巖見龍大和尚の十三回忌法要が厳修されました。お陰様で県内外から、百名近くの方々が焼香においでくださり、法要後、本堂でお齋をいただきながら、懐かしい話も聞かれ、良い法要を勧めさせていただきました。また、多くの檀信徒の方々から、ご香資をお送りいただき、厚く御礼申し上げます。

【ボケやすいタイプ】

- ①人の話を聞かず自己中心にしか物事を考えない人
- ②すぐ腹をたてたりする気の短い人
- ③仕事一本に打ち込んできて無趣味な人
- ④人の輪に入れない友達がない人
- ⑤笑わない人

家族、力を合わせ お盆を迎えましょう

佐藤 正樹

お盆は地方色豊かな行事です。時期的には七月十五日の新暦の盆、八月十五日の月遅れの盆、それに旧暦のいわゆる旧盆、時期に多少の差はあるようですが、正月と共に「民族の大移動」とまでいわれるように日本の一大イベント、国民的行事であります。長岡では月遅れ八月十五日のお盆であります。

今回は、編集長の命を受けてまして、お盆のお墓の飾り方、お墓の掃除の方法について書かせていただきます。まず、お墓の飾り方。地域によって、いろいろあるよ



馬を作り、蓮の葉の上に野菜を細かく刻んで供えます。これに洗米を混ぜて供えますとなお丁寧なのではないでしょうか。もちろん、お花、ローソク、線香は言う

うです。また、宗派によって多少の違いがあるようですが、安善寺のお墓の一般的な飾り方を紹介いたします。お墓の正面に竹などで長方形に骨組みを作ります。骨組みの上の横棒にソーメンを垂らしたり、糸でほおづきを結んだりして垂らします。なすやきゅうりで牛

までのことはありません。長岡では、花市というのが毎年あるようで、市に出かけるとお盆の供物の準備はある程度出来るようであります。各家庭の中の盆飾りと同じように、お墓も飾りつけるのが基本のようであります。そうそう、飾りつけをす

る前に、お墓の掃除がありました。常日頃、みなさんお墓の掃除は丁寧になさっているようですが、特にお盆は気合いを入れて、真心をこめ、なるべく大勢で、老若男女一体で、和気藹々と掃除する姿は、はたで見ている心なごむものがあります。十三日夕方に精霊を迎える「迎え盆」、十六日に精霊を送る「送り盆」、十三日夕方には墓で迎え火を焚き、提灯に火をつけ精霊を案内して、各家庭の盆棚に導き、その火で盆棚に火をともします。よく子供さんが提灯を持って歩いている姿を見かけますが、なんとなく顔がゆるんでしまいます。日本には、なにげない習慣の中にほのぼのとした、よい伝統があるんですね。ぜひ残しておきたいものです。十六日の午前中に精霊を送りに、お墓にお参りします。その時に墓の飾り供物などをきれいに後かたづけし、各自家庭に持ち帰り、墓前を盆前と同じように、すっきりとしておきたいものがあります。

第4回 新潟いのちの電話チャリティコンサート



畑 一生
(尺八、横笛)

竹の響きとアルパの音色
和とラテンの伝統
ジョイントコンサート



チューチョ・デ・メヒコ
(アルパ、ギター)

- ◆日 時/9月7日(火) 午後6時会場
- ◆会 場/長岡リリックホール (コンサートホール)
- ◆入場料/前売り¥2,500 (当日¥3,000)

●お問い合わせ/新潟いのちの電話後援会長岡支部事務局 TEL.0258-31-1507

新潟いのちの電話後援会・長岡支部が発足して以来、安善寺並びに総代、世話人会で僅かばかりの協力をさせて頂いておりましたが、左記の如くチャリティコンサートが開催されますので、お知らせいたします。●チケットは安善寺にございます。

【ボケにくい人】 ①前向きでよくよしない人 ②前向きで好奇心旺盛な人 ③若い人と付き合うのが楽しいと思う人 ④異性に好奇心がある人 ⑤世の中の動きに常に関心を持っている人

歳をとるといふことは

安藤 一夫

不摂生がたたって入院する羽目になってしまいました。腸閉塞と診断されたけど、結局のところ、はつきりした病因は判らぬまま。お陰で全身くまなく精密検査をしていただき、「五臓六腑まだまだ若いぞ」と、力強いご託宣をいただき、「ほれみろ、そうだろう」と悦に入っているのです。

だが、「俺はまだまた若い

もんに負けていない……と高言していたのに、病気を始めて、身体も心もいつのまにか錆ついてガタがきていたこと気づかされたのは、いささかショックでもありました。

でもまあ、これをいい機会に、心身の衰えを素直に認め、年齢にふさわしい生き方をしなければならぬ、少しずつ思い始めました。



だがちょっと待ってね、体力が落ちたからって、年寄り扱いをされるのはご免蒙りたいな。私は、いま六二歳ですから、そうですね、七〇を過ぎたら年寄りと呼ばれて仕方がないか、と思います。

もつとも、そのときが来たら、しぶとく八〇歳までと言いだすかも知れません。

いや、老碌して死ぬまで爺さん扱いはご免蒙る、と娑婆壊しをしているかもしれませぬ。

どうでしょう、檀徒の皆様、あなたは年寄り扱いされて腹が立たなくなる年はいくつくらいでしょうか？

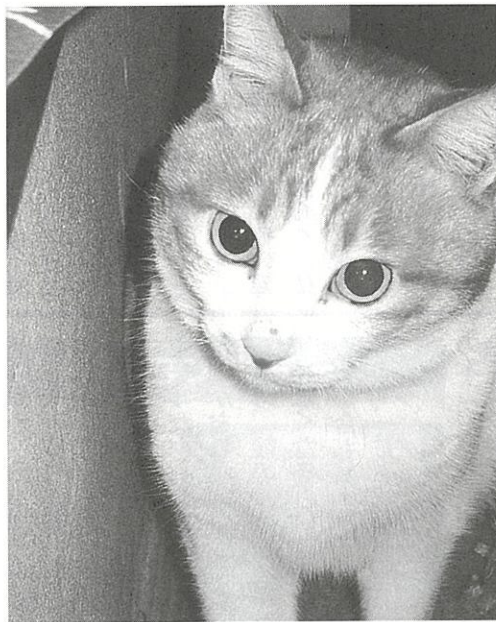
幻の詩人サムエル・ウルマンの「青春」にこうあります。

青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方をいう。ときには二〇歳の青年より六〇歳の人に青春がある。年を重ねるだけで人は老いない。

理想を失うときはじめて老

私はペコ大蔵

近藤弘子代筆



いる。

歳月は皮膚にしわを増すが、熱情を失えば心はしぼむ。人は神から美、希望、美悦、勇気、力の靈感を受けるかぎり君は若い。

頭を高くあげ希望の波をとらえるかぎり、八〇歳であろうと人の青春は始まる。

これからは、仕事と遊びながら、充たされた楽しい生き方ができたらいいかなと思います。

私の名前は「ペコ」と言います。平成元年七月、公園に捨てられていた私は、お寺の子供達に拾われました。最初は片手にのるくらい小さくかわいかったです。

名前の由来は、私が拾われて来たとき、とにかく空腹で倒れそうだったため、腹ペコから「ペコ」と名付けられました。

お寺は、朝から来客が多く、私を見ると「お寺の猫ちゃん」とやさしく声をかけて

くださるものだから、すっかり人間が大好きになりました。

昔は、朝の参禅会の時など、真面目に坐禅をしている人の膝の上で寝てしまったこともありました。黒い背広のお客様のズボンに私の毛がついてお母さんを困らせたことも数え切れないくらい。これも、私にしてみれば、親愛の情なのです。

写経会や俳句の会の時も、歓迎の意味で、会場を表敬訪問し、一声ご挨拶するわけです。本当は、私の自己アピールでもあるんですけど。

最近住職に似て、体が重くなり、あちこち歩き回るより、居心地のよい場所を探して寝ている方がよくなりました。でも、身体のためにも、晴れた日には、縄張りの点検もかねて動き回りたいとは思っております。

そうそう最近、私の喧嘩相手のカラスが餌不足のせいか、ありを食べているのを目撃しました。つくづく飼猫でよかったと思います。

お寺で私を見かけたなら声をかけてください。ニヤーン

梅雨どきは

おなかに優しい料理で



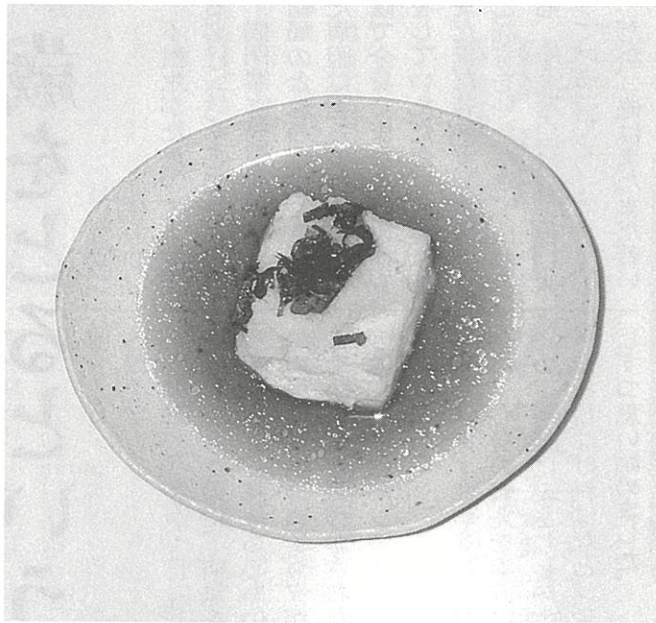
近藤マリ子

品を作りました。

揚げ出し豆腐

〔材料四人前〕 ●豆腐一丁、片栗粉、揚げ油●だし、酒、みりん、醤油●(薬味)大根

連日、梅雨どき特有のむし暑い日々が続く、ついつい喉ごしのよい冷たいものを食しがちですが、食中毒の多いのも、この時期が一番です。今回は、とても簡単な一



おろし、さらしねぎ、すり生姜、しそ

一丁の豆腐を四等分に切り、四方を割り箸でつつき、油が通りやすいようにし、キッチンペーパーに包んで水分をとばします。

削り節でだし汁を作り、酒、みりん、醤油で味を整えておきます。

大根おろし、さらしねぎ、すり生姜、刻んだしそを用意しておきます。

熱した揚げ油に片栗粉をうすくまぶした豆腐を静かに入れ、周りにうつつらと色がつくくらいまで油の中で返しなが揚げ、温めて器に入れておいた汁の中に入れ、上に薬味をのせて温かいうちに召し上がってください。

冷や奴とは違った味わいが楽しめます。

龍弘流 読者とのQ&A

Q 最近テレビで、有名人のお葬式などを見ておりまして、お焼香がなく、献花をすることが多いようですが、どうしてなのでしょう？

また、焼香する場合、回数など、正式なやり方など、決まりがあるのでしょいか？

A 最初の質問ですが、宗教によつて違ふようです。神道では神さかを供え、仏教では焼香するのが本来の姿です。お香のよいかおりは道場を浄め、心を静寂にしてくれ、邪心をなくし、仏心をおこさせてくれます。その素晴らしい香りと真心を、仏様や故人に手た向けるのです。ですから、煙ができればよいというものでありません。

なるべくよいお香を使うことが、心が落ち着き、真心を持たせてくれます。

今でも、お客様をお迎えするときには、座敷を清め、床の間に花を飾り、香を焚



き、素晴らしい環境をととのえるよう、心がけておられる方もいられます。

さて、質問の献花ですが、宗敎色をださないためとか、ホテルなどの会場の場合、香のかおりがいつまでも残るため、後の予定に会場が使えなくなるといふ理由からの場合もあるようです。中には、献花の方が感じがいいとか、今流行だから(焼香の本当の意味を知らない)というふうな考えでやる場合もあるようです。ぜひ、焼香の素晴らしい意味を、お互いに再認識したいものです。

次の質問の焼香の仕方

ですが、宗派によつて違ふようです。参考までに、曹洞宗では「初香を念じて、重香は念せず」と言い伝えられておりまして、まず合掌低頭、最初のお香は額に頂いてから焚き、重香とは、二度目のお香という意味で、そのまま焚き、もう一度合掌低頭するのが正式の焼香の仕方です。しかし、人数の多い場合は、「焼香は一回でお願いいたします」と言われることもあるようです。

ようは、回数などにとらわれず、真心をこめて焼香していたことが、大事なことでないでしょうか。

戦前戦後の想い出を語りつくせば数限りはありませんが、今日は平和であり、文化も向上し、近代化と共に工業化され、農業機械を使わなければ農業自体がなりたたない時代になりました。難儀を知らない人達が多いようです。

全部とはいわないけれど、私たちが子供の頃戦争があ

それも野良仕事の合間をぬって行ったものです。

その頃は米が不足して大変な時代でした。あれから四十年以上も過ぎた今では、米需給安定対策、稲作経営安定対策へと移り変わり、お上から、生産調整目標面積が二十九パーセントの減反面積となつて配分された昨年同様、米余りといえ

をし、高齢者が生き残り、最後のご奉公をしなければならぬかと思うと不安ばかりが先に走ります。

前置きが長くなりましたが、私事ですが、今年の九月二十六日に、親の十七回忌の法要をさせていただきありがとうございました。本来であれば自宅でお経を上げていたのですが今ま

た親類の皆さんも、亡き人を偲び、お寺様にはありがたいお経を上げて供養していただくことができ、あらためて御礼申し上げます。

特に、旅の人は（東京と静岡）立派な寺院であることに驚かれ、後日感銘のお

当時の想い出は、新町へ行く一面の焼け野原であり、神田の森とお寺が見えるばかりでした。

安善寺は素晴らしいお寺であります。本尊様に手を合わせ、御礼を申し上げ、仏様の慈悲におすがりし、願

旅の人が驚いた 安善寺は私の誇り

小林十代次

り、農家は労働力がなくて残された家族は大変苦勞して生きのびてきました。戦後、村に水道が入るとき、こま受けといつて一コマ四メートル位であつたらう、働く人は一人で四個も作業した。それは、農家にとつて大変よい収入になり、朝早くから穴を掘って、配管屋が伏設してから埋め戻す。

ばそれまでですが、昔から農民を生かすな、殺すなといった諺があるように、昔の地主、小作とは違つても、稲作だけでは食べていけないので他産業へ勤め、あるいは自分で会社を経営している人もいます。

での流れだと思いますが、方丈様の暖かいお心づかいから、「本堂で行つてはどうか」と言われたときは、とまどいながらも、家に帰つて法要をさせていただくようお願いいたしました。

手紙をいただき、私も檀家の一員として誇りを持っておりです。

現在の本堂は私が申すまでもなく、長岡大空襲の際に、先代の方丈様と共に、若し人達が身をもって戦火より守つてくださったおかげであると聞いております。



お別れ

（平成十一年三月〜六月末）

飯田テイ子様 三月六日寂

東京都杉並区

星野ムツ様 三月十九日寂

長岡市川崎

丸山十四郎様 四月二日寂

長岡市花園

梶ヨシ様 四月七日寂

三島郡寺泊

岡村富美様 五月三日寂

長野市

石田ヤス様 六月三日寂

三島郡脇野町

平塚淑人様 六月五日寂

長岡市今朝白

ご冥福をお祈り申し上げます。



日本人と国際交流

長岡技術科学大学留学生

黄 贊文
フオン ザンウイン

私は昨年の六月に、日本へ来て以来、一年間を過ごしました。その間、自分の国と違ういろいろなことを体験しました。特に、普通の日本人が国際交流に努力していることにとても感心しました。

私の妹は、長岡短大で三年間勉強し、現在新潟大学に通っています。妹の保証人は安善寺の近藤龍弘さんです。私は、日本へ来る前に妹が、近藤夫妻から受けているいろいろなことをよく聞いていました。妹は近藤夫妻を「お父さん、お母さん」と呼びます。私は近藤夫妻のいる日本という国に対して、尊敬の念を抱いて長岡技術科学大学へ留学して来ました。

「百聞は一見にしかず」。日本に着いた日、お父さんとお母さんは、新潟空港へ私を迎えに来てくれました。初めて会ったとき、とてもやさ



しい人だと思いました。

その夜、私と妹は手作りの日本料理を食べ、お寺に泊まりました。翌朝、お母さんは長岡技大へ私を送ってくれました。そのとき、布団、毛布、日用品をそろえてくれました。帰るとき、妹に食事代もくれました。中国の両親と友達に手紙でこのことについて話しました。皆は、私がいよい人と出会ったと思います。

お寺に行くと、まるで自分の家へ帰ったような気持ちになります。いろいろなことを教えてもらいます。檀家の人達にお願いして、ネ

パールで十五人の子供達を育てていることや、お父さんが新聞の中国問題の専門家みたいに中国のことをよく知っていることは、私をびっくりさせます。

国際交流は、個人と個人が基盤になっています。好きな友人のいる国は、その国を好意的に見る意識が働きます。

多くの日本の方は、国際交流意識を持っています。この意識は、周りの外国人に好ましいイメージを与えてくれ、やがてそれは、国と国との関わりや民族間との架け橋となる大きな役割を持つていると思います。

編集 雑感

雨空が続く梅雨の季節をうつと少し思う方もおられるのかも知れません。ジトジトして洗濯物が外に干せないということもあるでしょう。でも、私はこの梅雨時がそんなに嫌いではありません。

なにせ、秋雨のころと違い、寒くないし「あじさい」のあの淡いブルーやピンクの色がなんともいえない落ち着きを感じさせてくれます。花もあちらこちらで咲いているはずなんです、感性の乏しい私は、日頃ほとんど無頓着です。それが「あじさい」だけは、「アツ、きれいだな」と思うのが不思議です。この花は晴れている日より、雨の日のほうが美しいと思うのは私だけでしょか。

この時期に、この新聞の編集会議が招集されました。今回はどんな記事を書けるか、安藤編集長の提案が始まります。ご住職も、こんな記事はどうだろうか、こんな投稿があります、と割り振りが決まってゆきます。編集長の手際の素晴らしいこと。周りの編集委員は、ひたすら自分に記事の担当が来ないことを祈りながら、ただ感心するばかり。

運悪く記事を書くことになったときは、これも功德だ、多く書いた分だけ極楽に行ける可能性が高くなるんだと、一人納得させてはみるもの、さて、どうしようと、頭を痛める情けなさ。そんな繰り返しの中に、も、ここまで続いてきました。其れもこれも、ご住職の情熱があればこそ。それと、この新聞を楽しむに待っていてくださるお檀家さんが大勢おられるんですというお話に、少しは使命感に燃えながら、会議の後の、奥様の素晴らしい手料理と一杯を楽しみに編集会議は続きます。(高橋 潔)

稿迎 投歓

皆さまの楽しいお話や身近なお話、ご質問・ご相談、ご意見をお寄せください。お手紙・ファックス・Eメールのいずれでも結構です。お待ちいたしております。

〒940-00052
長岡市神田町一四一十
安善寺 近藤龍弘
FAX 0258-322870
Eメールアドレス
vc2r-krndu@asahi-net.or.jp

第7号、秋号は平成十一年九月十三日(月)発刊予定です。